

令和元年度病虫害発生予察予報第11号（2月）

令和2年2月6日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、西)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(西) 少(県下全域) <u>平年並(中央、西)</u> 、少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東、中央)</u> 、平年並(中西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(中央) <u>多(中西)</u> 、やや少(東、中央) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) <u>やや多(中央、中西)</u> 、平年並(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> やや少(中央) 少(中央) やや多(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 1 月 30 日発表）

（2 月 1 日から 2 月 29 日までの天候見通し）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率 70% です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は、高い確率 60% です。2 週目は、高い確率 50% です。3 ～ 4 週目は、高い確率 50% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い (多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	30		30	40
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60	
2 週目		10	40	50	
3 ～ 4 週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：2 月 1 日（土）～ 2 月 29 日（土）

1 週目：2 月 1 日（土）～ 2 月 7 日（金）

2 週目：2 月 8 日（土）～ 2 月 14 日（金）

3 ～ 4 週目：2 月 15 日（土）～ 2 月 28 日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

(1) 1 月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年に比べ多く、中央部で平年並、西部は少なかった。発病程度は中西部で平年に比べ高く、中央部でやや高く、西部では低かった。

(2) 2 月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、その他の地域は平年よりも少なかった。発病程度は県中央部が高かったが、その他の地域は平年よりも低かった。
- (2) 2月の気温が高めと予想されているため、既発ほ場中心に病勢が進展し、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。その他の地域は発生が見られなかった。
- (2) 2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部でやや少なく、西部で少なかった。発病程度は中西部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。
- (2) 1月の調査では、県中央部、中西部で先月以降も新たな発生が見られている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生面積は中西部で平年よりも多く、その他の地域ではやや少～少なかった。
- (3) 2月の気温は高めと予想されており、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で多く、中央部でやや少なく、西部では少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、その

他の地域では低かった。

- (2) 2月の気温は高めと予想されており、本虫の密度は高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。
(2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、発生面積は県西部で平年並、東部で平年よりも少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部で平年並であった。
(2) 2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部と西部では平年並であった。発病程度は中央部は平年よりも高く、東部と西部はやや低かった。
(2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部で平年並、西部では少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、西部でやや低く、東部で低かった。
(2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1)1月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりやや少なく、西部で少なかった。発生程度は両地区とも平年よりも低かった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。
- (2)本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並(中央部、西部)、少(東部)

根 拠

- (1)1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりもやや多く、東部でやや少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2)2月の気温は高めと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部、中央部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1)1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部と中央部で平年並、中西部では平年に比べやや少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、西部でやや高く、東部で平年並であった。
- (2)2月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(東部)、やや少(中央部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多かったが、他の地域は平年並以下であった。発病程度はすべての地域で平年よりも低かった。

(2) 2月の気温は高く、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県中西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。

(2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、県中西部では発生面積は平年よりもやや多く、発生程度も高かったが、他の地域は発生面積、発生程度とも平年並以下であった。

(2) 2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に既発ほ場では防除を徹底する。

(2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部、中西部)、平年並(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部で平年よりもやや多く、東部で平年並、発生程度は中西部で平年よりも高かったが、他の地域では平年並以下であった。
- (2) 2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。
- (2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 2月の気温は平年よりも高く、降水量も多めと予想されているため、再び発生し始めると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 2月の気温は高めと予想されていることから、本病の媒介虫であるタバココナジラミの既発ほ場では本病の発生に注意する必要がある。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 2月の気温は高めと予想されていることから、既発ほ場を中心に密度が高まり、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.